

第4分科会

株式会社ジョーキュー 取締役副社長 松村 等彰

1. 分科会全体に対する講評

私個人としても、久々に若い学生の皆さんとご一緒する機会に恵まれ、熱意あふれる多岐のテーマの一つ一つに、時代を反映した話題に触れ、大変有意義な一日でした。テーマから結論を求める迄のプロセスがいかにあるべきか、そして大事な事であるかを学び取っていただけたかと思ひながらの審査となりました。各チームでのテーマの設定でほとんどその優劣が決まった感がしました。それぞれに議論を重ねての結果発表かと思ひますが、説明の進め方、パワーポイントの使い方によって深み、厚みが異なるものです。そういう意味で賞に輝いたグループは、大変バランスよくまとめ、テーマに基づいた起承転結がきちっと出来ていました。

2. 各グループに対する講評

①急がずに行きませんか・・・～青春18きっぷでゆとり旅～

旅のテーマの設定は、学生らしいさわやかな視点で事象を捉え、ナレーションもよかったです。特にブラジルからの留学生マリエさんの体験とスピーチは鮮やかでした。若者だけの青春きっぷだけでなく、父母にあたる、団塊世代への使われ方も新発見でした。強いて言えば、スローライフのメリット、さらに経済性を入れるともっとすばらしい発表になったと思います。

②道の駅と地域の活性化

少人数の発表であったが、テーマの設定の動機から研究方法への移行までは良いが、最終結論へが少し早すぎた感がしました。実地調査も熊本県、大分県と広域で有名な店舗だけになっていましたが、地元福岡も欲しかった。第三セクターでの運営が大半と聞くと、利用者の声と経営収支がどうなっているかも調査に入れれば、さらに意義もあるものになったと思います。

③しつとうと！？福岡～居酒屋研究を通じて発見したもの～

居酒屋のメニューを切り口に、福岡と博多の文化を論ずる事は面白いと思うものの、表題と内容がばらばらで一貫性に欠いた。そのより所が岩中氏の「博多学」からの引用が多く、浅く、広く間口が広がりすぎてしまった。なぜ焼鳥屋にこだわったかが希薄であった。

むしろテーマを絞って、博多特有の食文化であるなら、活魚とか、屋台等に取り組んだら良かったかもしれません。博多の歴史も、もう少しいろいろな文献を調べると、もっと奥が深くなったと思います。

④福岡市青果市場移転・統合の問題点

今話題のテーマでもあり、タイムリーな問題提案を5人の分担作業でうまくまとめました。先生のご指導もあってそのプロセスもしっかりしていました。

但し、西部市場のデメリットばかりが強調されたが、人工島に移る事で総合的なメリットもたくさんあるはず。もう少し、政治的、経済的な面も踏まえて考案されたら、さらにいい研究になると思います。

⑤所有と経営のあり方について～日米比較による事例研究～

関心の高いテーマではあったが、課題が大き過ぎた気がします。欧米型のM&Aを支持する議論の方が先に出て、意図は読めたが、メリット・デメリットの実態をもっと調べて対比して欲しい。心情的にも、日本型企業の在り方も、たくさんいいものもある事を認識して頂きたいと思います。

3. おわりに

改めて、40数年前のゼミでの発表を思い出しました。今の方々は理論よりも、説明の仕方（パワーポイントの使い方）と、表情が豊かであり、解り易い発表です。反対にそれだけ内容への掘り下げ不足を感じました。しかしながら、各々に時間をかけて多くのテーマの中から、切り口を考え一生懸命に発表される姿はうれしき限りです。私も、今までの経験上からの「独断と偏見」で審査させて頂きました事をお許し頂きたいと思います。

最後に、この様な大掛かりな開かれた研究発表会を開催されることは、学生の皆さんにとって、一歩も二歩も進んだことであり、大いに感銘を受けた次第です。

松山大学経営学部 専任講師 井上 修一

1. 分科会全体に対する講評

発表テーマは、観光、地域社会、経済と幅広く、また身近な問題であったため分かりやすく勉強になった。最後まで興味深く聞くことができたのは、発表者の着眼点とプレゼンテーションの技術が優れていたからだと思われる。発表の審査は次のような基準で行った。

プレゼンテーションの評価については以下の点に注目した。①パワーポイントはわかりやすかったか。②話し方や論を進めるスピードは聞き手を意識した適切なものであったか。また発表内容と抄録集の評価は以下の3点を評価対象とした。①問題提起と結論ははっきりしているか。②問題提起から結論に至るまでの論拠ははっきりしているか。③自分たちの主張したいことが上手に相手に伝わるような構成になっているかどうか。どのグループもレベルは高く、皆さんの一生懸命さが伝わってくる発表会であった。

2. 各グループに対する講評

①急がずに行きませんか… ～青春18きっぷでゆとり旅～

青春18きっぷというテーマが観光学科の学生らしく、とても新鮮に映った。プレゼンテーションの技術とパワーポイントの出来栄えがとても良かった。はきはきとテンポのよい発表が印象に残っている。また写真と音楽が効果的に挿入されていたので、聞き手は最後までひきつけられた。スローな旅行の体験記を本人が写真を交えて紹介した点も好感をもてた。レジュメの内容についても、特に青春18きっぷの利用者の4割が中高年層であることに驚いた。また新幹線や飛行機は旅の移動手段でしかないが、各駅停車の青春18きっぷは電車に乗ること自体が旅の目的であるという主張が独創的であり評価できる。青春18きっぷの魅力が十分にフロア全体に伝わったのではないかと思う。

②道の駅と地域の活性化

地域活性化というのは多くの人の関心をひきつけるテーマであろう。プレゼンテーションの技術とパワーポイントの出来栄えはともに良かった。特に写真とデータを効果的に使ったことで、説得力を高め、聞き手にわかりやすく伝えることができたのではなかろうか。道の駅が地域活性化につながっていることを、アンケート調査のみではなく、実際に足を運んで調べたところが評価できる。情報の収集と分析に多くの時間と労力を費やしたことが伝わってきた。道の駅の働きを上手に捉えており、実地調査の写真はそれぞれの道の駅の特徴を伝えるのに役立っていた。地域における道の駅の重要性が非常によく伝わってくる発表であった。今後、道の駅に注目してみようと思う。

③しっとりと！？福岡 ～居酒屋研究を通じて発見したもの～

福岡らしさを探してみようという親しみのもてるテーマである。プレゼンテーションの技術とパワーポイントの出来栄えはともに良かった。聞き手にわかりやすく伝えようとす

る丁寧な話し方と説明が印象に残っている。また報告と質疑の全体を通して、全員参加の姿勢が好印象であった。レジュメの引用は出典がきちんと示されており、論拠に説得力がある。福岡の居酒屋件数は日本でトップクラスにあるということだが、その福岡の居酒屋の研究から福岡らしさを探し出そうする着眼点が独創的である。これは難しいことであるように思われたが、県民性とネーミングに着目することで上手に福岡らしさを見出している。福岡の新たなPRポイントとしてどんどん提案していただきたい。

④福岡市青果市場移転・統合の問題点

このテーマの背景をあまり詳しくは知らなかったが、最後まで興味をもって聞くことができた。プレゼンテーションの技術とパワーポイントの出来栄はともに良かった。特に説明をするときにイラストを段階的に小出しにするという工夫があり、聞き手は分かりやすかった。レジュメにはテーマの背景が詳細に説明されており初心者にも理解しやすい。移転統合案にたいする市の見込みと仲卸業者の視点を比較しているところが特におもしろい。市場統合が西部市場の仲卸業者にあたえる問題を整理し、実際に関係者にヒアリングを行っているところが評価できる。また自分たちで配送時間を実験しているところに好感がもてる。今後も引きつづき注目すべきテーマであるように感じた。

⑤所有と経営のあり方について ～日米比較による事例研究～

難しいテーマであるが最後まであきらめずに取組んだ姿勢が評価できる。一生懸命さが伝わってくる発表であった。パワーポイントは要点が簡潔にまとめられておりわかりやすかった。口頭で補足する箇所がいくつか見られたが、テーマが難解なのでもう少し分かりやすく説明する工夫があればさらによい発表になったはずである。レジュメでは日本型と欧米型の経営を比較し、欧米型の経営が望ましいという結論になっている。欧米型の経営に賛成している他の人の意見を参考にすれば、自分たちの結論を導くまでの過程を構成しやすかったのではなかろうか。問題提起から結論に至るまでの過程でM&Aに触れるなど、かなり勉強したことがうかがわれる。さらに多くの問題について学べる素晴らしいテーマだと思われるので、今後の発展に期待したい。

3. おわりに

どのグループの発表も一生懸命に準備をしたことがうかがえました。またテーマはどれも多くの人の関心をひきつけるものだと思われました。この発表会を終点としてしまうの

ではなく、今後もさらに研究を重ね、よりすばらしい成果を導き出されるよう期待しております。グループ研究発表会に審査員として参加させていただき貴重な経験となりました。ありがとうございました。

第5分科会

イデアパートナーズ株式会社 代表取締役社長 井手 修身

1. 分科会全体に対する講評

九州産業大学商学部の学生研究発表会の審査にはじめて参加して、再開発、環境問題、プロスポーツ経営、業績評価、GTと多岐にわたるテーマ設定に感心した。全体から見ると、テーマに対する課題設定、事例調査、フィールドワーク、発表の完成度にバラつきがあったと思う。昨今は、インターネット上での検索で簡単に、多くの情報が収集でき、レポートの体裁を整えることはできる。如何に課題を深掘して、分析・提言しているか、そのために現場に足を運び、自らの五感を活用しているかを評価のポイントに置いた。机上の理論だけでは、実社会のマーケティングには通用しないもの。また発表の仕方は大変重要で、人に理解してもらうための資料作成、発表の工夫・態度にはもっと時間をかけていただきたい。その中でグリーンツーリズム～みんなに広めたい～は2年生の研究発表ではあったが、その姿勢は大いに評価できた。

2. 各グループに対する講評

①グリーンツーリズム ～みんなに広めたい～

そのテーマ通り、グリーンツーリズム（GT）の意味、統計的なデータ、取り組みの紹介、比較分析、結論という流れが出来ており、聴講者の学生さんもGTに興味を抱き、体験してみたいと感じたことから、そのプレゼンテーションの技術・態度は素晴らしかった。パワーポイントの資料も良くできていた。何より、福岡県うきは市浮羽町、宮崎県延岡市北浦町、大分県宇佐市安心院町など現地に足を運び、GTとは何かを体験やヒアリングにもとづいて、分析や提言をしていることを高く評価した。筆者も地域の活性化策の一つとして農山村のGTに携わることがあるが、その活動が一過性の民泊体験、農業体験になっているものが少なくない。持続可能なGTとしてプレーヤーのリーダーシップ、組織づくり、生業の方向性の明確化などで、今後も学生さんの研究課題として深めてもらいたい。